

I 調査目的

対象とする勝弦地域の全域および、さらに周辺部も含めた現地植生調査を基礎に生態学的な植生単位を把握する。同時に各植生単位の具体的現状配分を現存植生図化する。また、各植物群落単位と立地条件、とくに土壤水分や地下水位との相互関連を検討する。

植生および植生図によって、現在の土壤水分とのかかわり合いを把握して、今後の変化を客観的に把握するための生態学的な基準図、基準資料とする。

さらに各代表的植生単位ごとに永久方形区 (Permanent quadrat) を多数設定して毎年各シーズンごとに現地調査する。植生の変化を指標として環境アセスメントを実施する。また次年度以降は、現地調査による潜在自然植生図の作製を行う。

現存植生図、潜在自然植生図、各植生域の代表的な永久方形区の定期的植生調査を基礎に長期的視野に立って、継続的な環境の診断、監視を科学的に実施する。

以上の植生調査を基礎に塩嶺トンネルの建設が地域の自然環境、とくに地下水位、水分の変化を通して植生や人間の生存環境に影響を与えないための生態学的提案を行うことが、本調査の主な目的とされる。